

田中理事長の
責任逃れを
許さない!

新たな 日大闘争を

「田中理事長によるトカゲ
の尻尾切りで終わらせる
な! トカゲの尻尾はまた
生える! 頭を変えねば尻
尾も変わらぬ!」(日大文
理学部生)

1968年6月、三崎町の経済学部前を
日大の腐敗に怒る学生が埋め尽くした

全日本学生自治会総連合(委員長: 斎藤郁真)
【電話】03-3651-4861
【メール】mail_cn001@zengakuren.jp
【ウェブ】www.zengakuren.jp



YOUTUBEで
前進チャンネル
好評配信中!

日大生は今こそ 声を上げよう

「50年前、日本大学で34億円(当時の価値)の使途不明金騒ぎがあった。真相を解明しようとした日大生は、大学当局にけしかけられた日大生によって、暴力にさらされ、双方に負傷者が多発した。会計職員らは事故死や自殺を遂げ、理事長は雲隠れし、上層部は何の責任も負わなかった。

現在の日大の理事長も、悪質タックル事件や建設会社からの賄賂について説明責任を果たしていない。

このままでは逃げ切られて、体質は何も変わらないだろう。

いつだって、割りを食うのは学生だ。

悪質タックル問題で学生にだけ痛みを味わせたり、建設会社から賄賂を受け取ったり、山口組組長との交際問題など、日本大学には問題が山積している。

学生だけでなく、芸術学部の教員は授業やSNSで不満を述べ、末端の職員は学生のフォローや謝罪に追われている。

誰もが、このままではいけないと考えている。

学生が大学の主役なのだ。学生が少し声をあげることで、日大の体質は変わる。」(日大芸術学部生)



トカゲの尻尾切りは、頭を変えねば、終わらない!!
田中理事長の独裁にピリオドを!!!



第三者委員会の中間報告書(6月29日)の骨子

- タックルは内田前監督と井上元コーチの指示
- 2人は指導者の資質を欠き、極めて悪質。弁解は信用できない
- 日大関係者が選手らに不当な圧力や口封じをした
- 部の再建は不当な介入をした日大関係者の影響を排除して行う
- 監督選考は外部を交えた公正、公平な委員会の設置を要望する
- 選手、父母会、OB、関東学生連盟らが納得できる指導者を選んでほしい

日本大第三者委員会の中間報告書ポイント

- 悪質なタックルは内田前監督、井上元コーチの指示で行われた
- 両者は指導者としての資質を著しく欠いており、責任転嫁するような姿勢は極めて悪質
- 一部の日大関係者により当該選手に責任を押しつけ、監督やコーチの指示はなかったことにしようとする不当介入があった
- 部の再建は内田氏と井上氏や、不当介入を行った日大関係者の影響力が完全に排除された状態で行われなければならない
- 日大が実施した監督公募については、外部を交えた選考委員会を設け、透明感を持った手続きを進めることを望む

文科省局長の子どもが 東京医科大学に裏口入学!?

文科省局長を逮捕

私大支援で便宜受託収賄疑い 見返りわが子合格

東京医科大学 佐野太容疑者

文科省局長の子どもが東京医科大学に裏口入学したと疑われる。文科省局長の子どもが、東京医科大学に裏口入学したと疑われる。文科省局長の子どもが、東京医科大学に裏口入学したと疑われる。

文科省局長の子どもが、東京医科大学に裏口入学したと疑われる。文科省局長の子どもが、東京医科大学に裏口入学したと疑われる。文科省局長の子どもが、東京医科大学に裏口入学したと疑われる。

【企画のお知らせ】
京都大立て看板規制を
京大生とともに考える
【日時】7月26日(木)18:30
【場所】神保町区民館2F洋室C
【主催】法政大学文化連盟